

平成 31 年度新規事業について

⑨ 成人期からの口腔機能維持向上事業

1 趣旨

口からの健康長寿を延伸する観点から、食事や会話などの様々な機能と関連する口腔機能を維持向上することが重要である。摂食嚥下障害や咀嚼機能障害などを予防するには口腔機能を維持するためには、その前段階であるオーラルフレイルの状態からの適切な管理の必要性が明らかとなっているが、社会的には十分周知されていない。

本事業でオーラルフレイル等の口腔機能に係る普及啓発等を行う。

2 事業内容

(1) オーラルフレイル・口腔機能低下症に関する研修会

対象者 : 歯科医療関係者や介護施設職員等

回数 : 2 回程度

研修方法 : 特別講義、グループワーク等

(2) 成人期の歯周病・口腔機能スクリーニング事業

企業健診などの際に、スクリーニング（アンケートや唾液の採取）を実施し、結果が要指導・要精検とされた人に対して歯科保健指導及び歯科健診を実施し必要に応じて受診勧奨を行う。

① スクリーニング

- ・アンケート 「歯を磨くと血が出ますか」「よく噛んで食事しますか」等
- ・唾液検査 唾液中の血液の有無を確認することにより歯周病を判定

② 歯科保健指導・歯科健診

- ・スクリーニングの結果が要指導又は要精検となったものに対して歯科保健指導、歯科健診を実施

3 予算額 1, 200 千円（国 10/10、国 1/2）

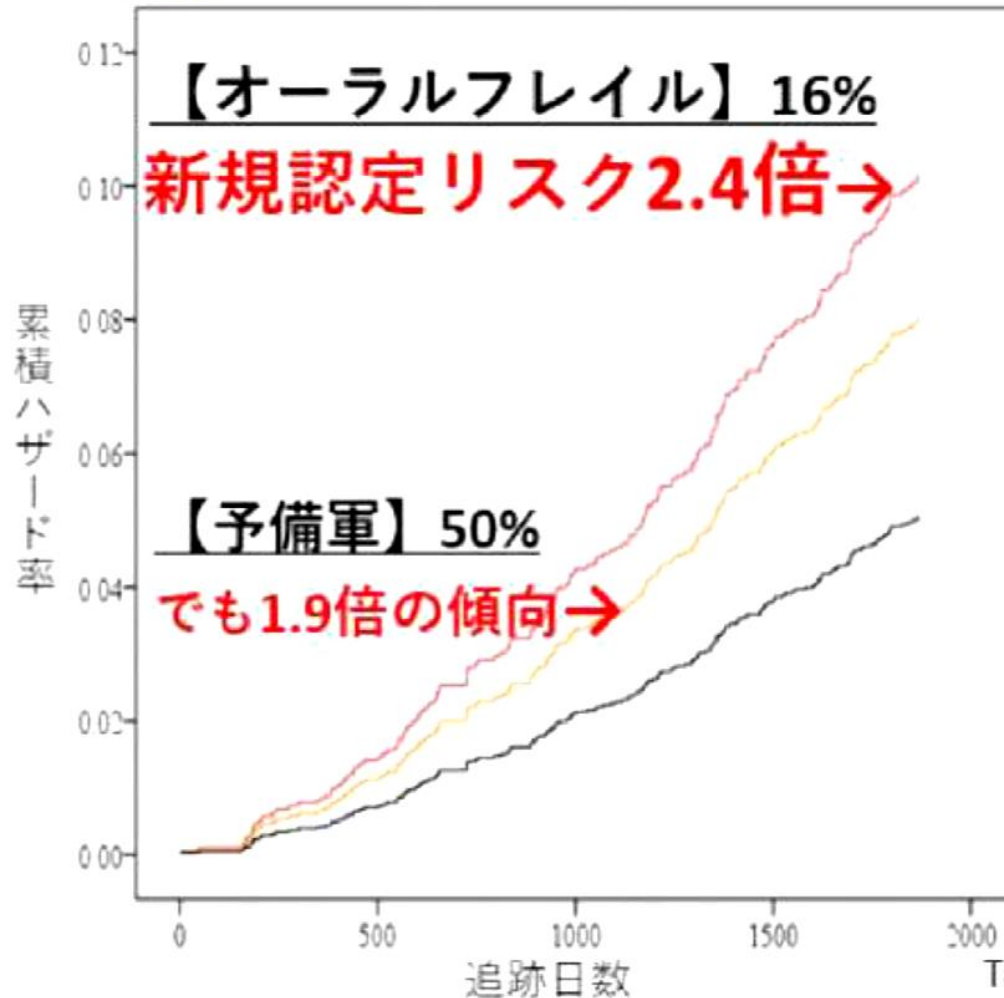
4 背景

- ・H30 診療報酬改定で口腔機能低下症に対する検査・管理を導入。その前段階である、オーラルフレイルは地域保健事業として実施が必要。
- ・8020 達成者は 44.9%（H29）であり、前回調査と比較して悪化しているとともに、全国平均と比較しても低い水準（H28 全国 51.2%）
- ・厚生労働省は、「歯周病は糖尿病を悪化させる因子であり、糖尿病患者に歯周病治療を行うと血糖値が改善する」との見解
- ・歯周炎を有する患者の割合は全ての年代で悪化傾向であり、全国と比較して高い

オーラルフレイルは要介護新規認定リスクが2.4倍高い
※主観的指標・客観的指標を含めての検証



5年後の要介護新規認定率



3つ以上当てはまるとオーラルフレイル
1つでも当てはまると予備軍

- 自身の歯の数が20本未満（客観）
- 咀嚼能力の低下（客観）
- 滑舌の低下（客観）
- 舌運動の力の低下（客観）
- 噛めない食べ物の増加（主観）
- お茶や汁物でむせる（主観）

※ 1つ1つが介護リスクを高める傾向

主な調査方法

- 千葉県柏市在住自立高齢者2,011名
(73.0±5.5歳、51%が女性)にて検討
- 歯科医師・歯科衛生士による定量評価
- 年齢や身体的フレイル、疾患等の影響を調整済み